刊（月曜日除）　昭和25年10月6日 第三種郵便物認可　昭和26年7月13日 運輸省特別扱承認684號

磐　城　日　日

昭和28年（1953）1月4日（日曜日）　第722號

磐城日日

發行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
振替仙台31,355番
編集兼發行人　長瀬芳郎

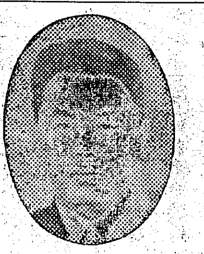
愈よ模擬投票始まる
選ばる市長は誰か
當選後新市長で模擬市會

新春には新春の夢が宿るその夢をしつかと抱いて護り育てゝ行くことが庶民の切なる願望であるこの切なる希いが達成されるかどうか、或いは一歩譲つて軌道にのるかどうか、それに各人の居住する市町村長並びに市町村會議員の在り方に依存する處のものが極めて大きい、この意味において新春劈頭本社が試みる模擬市長並びに市会議員選擧は直接われ〱町村民の希望を計る尺度として年末發表以来異常の関心が持たれている

本社は言論機關としての使命の上から單に本年改選期にある小名浜町長の事前模擬選擧から一歩を進め順調にゆけば本年中に実現の可能性ある小名浜を中心とする大都市計画誕生の構想の下に初代市長並びに市会議員にどんな人物を選び出したらよいか、町村民の偽らない氣持をそのまゝ反映した事前模擬選擧を行い、これらの人々の買收されない、煽動にのらない、眞の希望を捕らえ輿望の中に果して輝かしい大衆の如何なる人物が市長に登場するかをテストすることによつて地方発展の行政的人材を掘り出したく來るべき本秋選擧のために敢えてこの擧に出でたものである

なお用紙は本紙四日號より本紙に附し本月三十一日締切り二月一日附本紙上に發表する、又市會議員も同一用紙の別記されることになつている

産業開發に全力
縣会議員　小野義一



多事多難な昭和二十七年も過ぎ、こゝに二十八年の新しい年を迎えましたことは一重に皆様の御協力による賜と感謝します先ず年頭に當り、昨年度成し得なかつた縣政の諸問題を検討して是と取組み、本年度新たに着手すべき商港整備、産業道路開發等幾多の緊急問題を今年こそ軌道にのせて、常磐地區總合開發に拍車をかけたい所存です何しろ只見川電源と常磐炭田と小名浜を中心の工都地區と鮫川の尨大な水利と、各種の発展諸條件の中で輝かしい新春を常磐地区は迎えたのです、私は微力ながらこれらの強力な推進を縣政に全力を注ぐことによつて果したいと年頭に當り新たに覺悟しております

五日官公廳
御用始め

明五日から各官公署の御用始め、今年から一層民主的にサービスいたしますと官公署の辯

斗病生活者を慰問
三日水素労組

日本水素労働組合では人々が壽ぐ正月も生きる力に必死の斗病生活を續けている豊間町望洋荘の人々を慰安し激勵しようと三日フイルム八巻をたずさえて午後五時望洋荘に訪れ、幻燈映画会を催して慰問した

なお同勞組では家族新年幻燈会を次の日程で行う

▽四日…玉露
▽五日…滝尻
▽六日…渚
▽七日…辨別
▽八日…高山

十大ニュース懸賞
八日審査十日に發表

本社懸賞募集十大ニュースは本四日日附の應募を以つていよ〱締切り別報審査員の手で慎重な審査が行われるか果して全解優勝の榮冠誰の手に三日まで集つた應募者の数は五十余、四日の應募者約十人とみて六十名の中から晴れの当選者が選出される

なお應募作品は九日公民館において既報審査員間に詮衡が行われ十日本紙上におの〱入賞者が發表される

小名浜都市計畫委員會

小名浜町都市計畫委員会は三日午前十時から小名浜公民館に開き具体的都市計書について討議した

巳年生れの小名濱名士

巳年生れだからといつて蛇のように決してヌラクラしてはおりません、若し少しでもそんな傾向が多少でも見えるとしたら長い占領期間を穴の中で暮す思いで送つたセイかも知れない、蛇だつて春先き穴から這い出したばかりの時は先づ太陽の光線訓練をジッと行うではないか、と怪氣焔を擧げる巳年生れの小名濱在住名士連は、待望のオラが年到来とばかり〃新春窓開く〃思いてハリキッて御座る

△その一小名浜町議会議長長瀬彰義氏

明治三十八年生れの四十八才、男盛りの働き盛り林城の一角に巨大な居城を持つ銘酒磐城櫻の醸造本舗「今年とそ腕を見せるぞ」決意の表情やゝし

△その二、横町居住小野直千賀氏

長瀬氏と同年同級で成長し、社會に出て町会議員さんにも轡を並べて出馬仲よく当選して町議会重鎭・映書館磐城座を經營して益々フトコロも膨れる幸運児

巳年の新生②
鳩の巣　如鳩

それにまた十二支の半期とも云ふべき最後の位置にあつて、丁度蛇が半年の間、土の中にちつ居して時期満ちて地上に飛び出して活躍する動勢に相應して居るのが巳年の特徴である、巳は古字であつて今の字に直せば蛇のことである

東洋ばかりでなく西洋でも、蛇に智ある動物として扱かわれて來た、更にまた忍耐強い性分が特に取り上げられて居た、基督も此の蛇の特性を譬諭に引用して「汝ら智きこと蛇の如く馴良なること鴿の如くあれ」と云つて居る

また支那でも無門関の中に釋尊のことを尾巴則ち大巳に譬へた頌がある「枯起花来、尾巴巳露、迦葉破顔、人天罔措」ことで「尾巴」と云ふのがそれで「巳」が世の中にその正体を現わしたということになつている

これは地中にちつ居していろ時の姿が「巳」で従つて「巳」の字には目が入れて無い、それが「巴」の字になると即ち正体を露はした活躍の姿であるから「巳」の字に一点を入れて「巴」となつて活眼を開いた形になつた譯である

龍を描いて入眼するのと同意義である

ことに無門が龍とも云わず辰とも云わず、また巳とも云わずして「巴」の字を用いた心底は、けだし其邊にあつたものではなかつたろうか？ついでに無門の頌の大意だけを説明して置こう

市長市會議員模擬選擧
投票用紙

市長候補者	市會議員候補者
氏名	氏名

◇投票所　磐城日日新聞社

謹賀新年

湯本地區警察署
署長警視　原　毅一

湯本町議會
議長　飯島隆俊
副議長　小野英二郎
總務委員長　朝妻仲治
厚生〃　小井戸庄松
文教〃　塚本中一
土木〃　白土初太郎
消防〃　馬目隆義
水道〃　高萩佐久馬

賀正
早期磐城地方の水利開發と綜合開發とを期したく郡民各位の御協力を御願い致します
磐城地方水利開發期成同盟會
会長　松本久吉
副会長　水野政次郎
〃　鷺　文治
〃　飯島隆俊

湯本町消防團
團長　白石初太郎
副団長　熊田留壽

磐崎村消防團
團長　瀧　義勝

湯本町第一小学校
校長　鈴木謙四郎

湯本町第二小学校
校長　渡邊博之

湯本町第一中学校
校長　水野　武

湯本町第二中学校
校長　永山早苗

福島縣立湯本高等学校
校長　篠原理男

湯本町教育委員会
委員長　鈴木芳彦
副委員長　木村進一
委員　大森益雄
〃　日野利春
教育長　深澤　定

磐崎中学校
校長　佐藤　武

藤原小学校
校長　岡部政一

長倉小学校
校長　佐藤忠一

磐崎小学校
校長　佐藤　恂

湯本財産區議會
議長　富樫勝秀
副議長　若松佐久馬

湯本電報電話局
局長　加藤健治
業務課長　菅野平治部
施設課長　橋本　昇
庶務主任　小野武太郎

湯本町郵便局
局長　土田　盛

磐崎村郵便局
局長　大平純一

改進黨福島縣支部連合会長
縣會議員
大井川正巳

松本庫造
湯本町議會議員
湯本町防犯協議會議員

品川白練瓦株式會社
湯本町天王崎

湯本町藝妓莊組合
電話一〇四番

金比羅神社
諏訪神社　社務所
宮司　金土重武
湯本町関船

湯本町温泉組合
組合長　鈴木康平

湯本地區建設業親和會
会長　矢吹莊司
顧問　長谷川常吉

常磐炭礦株式會社
磐城礦業所

湯本町金融團
常陽銀行湯本支店
東邦銀行湯本支店
福島相互銀行湯本支店
大東相互銀行湯本營業所
湯本信用金庫

市廳舎の新築提唱

獨立初の新年を迎えて

小名川岡　松田生

只見川の電源開発は晝夜兼行で突貫工事が進められてゐる、同時に縣内各地で工場誘致の計画が強力に推進されてゐる、特に商港を持つ小名濱町はビニロン工場の外に、1 低品位鐵鑛を利用する電氣銑工業と 2 製鹽工場より出るニガリ利用の金属マグネシューム工業とが最適であるとの縣工業振興計画が新聞に發表された、それは單なる夢ではない、又單なる夢であつてはならない、思ふにあらゆる産業はその原動力たる電力の豊富良質たる地域に發展するのは理の當然であり、正に小名浜町は此の電力と海運との二つを兼ね備ふる好適と言はねばなるまい、特に電力面については柳津片門兩發電所を加へ約二十萬KWが東北電力に依つて年内に發電され、更に本名、上田の兩發電所が二十九年度に完成される豫定なので、本縣は正に水力發電縣となり、而かも之が送電幹線（十五万ボルト）の完成と平変電所五萬KVAの設備（更に増置計畫　竣工と相俟つて、將來小名浜の電力需用は工場誘致に要大態勢万全と云ふも過言ではなく、市制実施目標と併行して所謂大小名浜建設も近き將來であることを力強く思はせる譯である、即ち海の豊庫たる漁業發展と工場誘致の立地條件を兼備した工業の進展とは、大小名浜建設の二大礎石となつて、必ずや大躍進を遂げるであらう、我々町民も之を念願し、又之が實現を神かけて祈る者である

其處で發展途上にある小名浜町に於て只一つ殘念に思ふことは、廳舎の餘りにも貧弱で職場能率上餘りにも不向である事である、何とか殿樣も衣裝柄とか、何も華美壯麗を念ずるものではないが、服裝正常で町の發展に伴ふ、それ相應の廳舎の新築は決して無用の贅澤物ではない、下駄ばきの出勤、下駄ばきの訪客、下駄の騷音、雜然たる話聲一人の電話は一課の執務を妨げ、一課の來客說明は全課へ筒拔け、而も衛生上健康な執務が出來るかどうか

各界の名士が參集

盛大な小名浜の名刺交換會

恒例小名浜町名刺交換會は元日午前十時より第一小学校講堂に於て二百余の名士が參加して盛大に行われた

すでにお屠蘇氣嫌に目出度く顔を染めた多士才々町内各界の代表有志着席し長瀬助役の司會で元朝の澄んだ冷氣に朗々と「君が代」が齊唱され獨立第二年の門出を祝した、水野町長の年頭にあたつての挨拶に續いて小野縣議、馬上町会副議長、鈴木警察署長、駒木根玉川農協組合長等が次々に立つてテイーブルスピーチを行つて簡單な宴会を行い有意義な年頭を飾つて散會した

駈け足の春

立春後十日で舊正月が來る

駈け足の春……明後六日から小寒に入り、一月二十日から大寒となつて二月三日が節分、翌四日立春を迎えるので今年の舊正月は立春から十日も過ぎて迎えることになり、舊正月が來たら春は駈け足でやつて來るものとみられている

街の聲

お正月の變つた風景と云えば何と云つても豫備隊のサトガイリ、新國軍の卵がアメセコ一色で肩で風切つて歩いている、これが風ふたたび！

お正月に酒はつきものだが、變つた街の舞台裝置家が居る、トキは二日の朝マダキ、トコロは小名浜銀座のドマンナカ、銀行と電話局の自轉車置きが袖につげられ、料亭の植木、看板でバックを飾つた街頭劇場の舞台裝置が何時の間にやら造られて雨戸をくつた近所の人々を驚ろかした

銀行の前に立つたオッサンその看板を見て曰く「ハヽア月見莊とはこゝかね！」

とゝで舞台がグルッと廻るやバスから降りたオッサンとバスガールの会話「オヂさん湯本からでしよう、あと十五円出しなさいよ」「オラー十円しかネエ」「ナニサお正月から」「お正月だつて貧乏だ！」悲痛でアルネ

天氣豫報　4

（本日）北西の風一時やゝ強よく良い天氣ですが山沿地方では雲が擴がり小雪の降るところもありましよう

魚菜市況　3

（小名浜中央青果市場）卵一一、五〜一二油菜（一把）四大根七〜二五葱三〇〜五三甘藷二九〜三〇干大根七〜一五馬鈴薯二〇白菜二八〜三〇丸大根一〇〜二〇人參五一〜六八へらな一五牛蒡七五ホーレン草一三五干柿（一ケ）二、一〜三、三澤庵五〇里芋七〇根生姜二八五

（魚市場）海老八六〇〜一二〇〇たら一六〇目拔四〇〇赤次三一〇たこ二二〇平目六〇〇イカ一〇〇

冬服地入荷
純毛服地專門店
良い生地で良い仕立、そして出來るだけ安く
これが當店のモツトーです
皆樣のチケツトを御利用下さい
大井洋服店
小名濱町本町通り

印刷ノ御用命ハ
長瀬印刷所へ
事務用印刷物
廣告・チラシ

謹賀新年

縣出先機關協議會

日本專賣公社平出張所
所長　本多貢
經理課長　高羽孝雄
販賣課長　坂内慶藏
生産課長　國分誠次
鹽務課長　鈴木壽雄
監視課長　瀧内甚五右衛門

小名濱海上保安部
部長　遠山武夫

海上保安協会福島縣支部
日本水難救済会福島縣支部
小名濱海難救護会
支部長
会長　三代義勝
主事　菊田敏
電話（小名浜）三五番

東北海運局小名濱支局
支局長　香野晃

郡小中校長會
第二支會

小名浜町内校長會

江名町漁業協同組合
組合長　黒川喜一郎

中之作機船底曳網漁業協同組合
組合長　吉田義
理事　吉田喜好　吉田金司　高橋源太郎　坂部武男　吉田收平　吉田義勝　新妻豊　金成恒男　和深七郎
監事　田村雄次　松本茂　作山彌一郎

運輸省小名浜港工事事務所
所長　伊藤甫

江名港修築事務所
所長　大關清治

福島縣小名濱港務所
所長　浜田正軌

綴郵便局
局長　箱崎甚平

小名濱電報電話局
局長　新妻新量
外局員一同

江名町郵便局
局長　鈴木慶助

渡邊村消防團
團長　久保木保雄
副團長　稲田德彌

渡邊村農業協同組合

平地區米穀卸賣協同組合
理事長　片寄保

江名町金融團

株式會社亀井商店小名濱支店
支店長　佐藤幸三
小名浜町　電話二〇七番

久之浜炭礦礦業株式會社
社長　藤二雄

元衆議院議員
齋藤[illegible]晃

鹿島村役場
村長　八代義定
助役　三島五郎
收入役　新妻二郎

鹿島村議會
議長　志賀久馬
副議長　長瀬貴
外議員一同

平市鐵工業會
会長　佐藤源吉

桑原製菓株式會社
代表取締役　桑原文治
平市禰宜町三四
電話一三二九番

堀江工業株式會社
専務取締役　長谷川常吉

福島縣労働金庫
平支所
電話一四六四番

銘酒　伊勢盛
釀造元　近藤酒造場
近藤貴一
電話江名二八番

銘酒
磐城櫻
小名浜町　電話一九九番

塗料・顔料専門
株式会社　ダイヤ塗料商會
代表取締役　橋本保
平市南町六七
電話一三五一番

土木建築請負
製材木工
平土地住宅有限会社
平工業株式會社
正木昌次郎
平市禰宜町三八

泉村公民館
副館長　佐藤權兵衛
主事　吉田勇二

泉村農業委員会
委員長　吉田善八
副委員長　佐藤權兵衛

泉村農業協同組合
組合長　志賀漣

磐城通運株式會社
泉支店
支店長　小林重三

箱崎瀧三郎

小松勇吉

橋本佐多壽

平自動車整備組合
スピイディ自動車商会　大内昌吉
佐藤自動車工業株式會社　佐藤竹雄
東部産業株式會社　渡邊彦次
東洋自動車工業株式會社　木原氏衛
沼田自動車整備工場　沼田喜八
福島トヨタ自動車平營業所　佐藤武
福島日産自動車平支店　大竹喜代治
鈴木自動車ボデー工場　鈴木艶子
佐藤電機工業所　佐藤金五郎
日光商會　中野良夫
矢吹電機商會　矢吹賢吉